

令和元年7月31日

「後見制度支援預金」の取扱開始について

北海道信用金庫(理事長 前田繁利)は、令和元年8月1日(木)から後見制度を利用される方を対象とした「後見制度支援預金」の取扱いを、下記のとおり開始いたします。

「後見制度支援預金」は、家庭裁判所が発行する指示書に基づいて、口座開設や払戻し等のお手続が行われるため、透明性の高い管理を行うことができます。

当金庫は、今後とも地域金融機関として、お客さまのお役に立てる金融機関を目指し、サービスの向上に尽力してまいります。

記

1. 取扱開始日

令和元年8月1日(木)

2. 商品概要

- (1) 対象となる方 後見制度を利用して、家庭裁判所から口座開設に係る指示書の交付を受けた方
- (2) 主な特徴
- ・普通預金での取扱いとなります。
 - ・公共料金等の支払いや、年金等の受取りにはご利用いただけません。
 - ・後見人が別途管理する被後見人の生活口座を、本預金口座開設店に開設している必要があります。
 - ・お取引は、本預金口座開設店に限ります(僚店ではお取引できません)。
 - ・キャッシュカードは発行いたしません(ATMではお取引できません)。

※詳しくは、添付の資料をご覧ください。

以上

(問い合わせ先)
北海道信用金庫
業務企画部
担当：大矢
TEL：011-241-2120

後見制度支援預金手続きの流れ

北海道信用金庫

後見開始又は未成年後見人選任の申立て

申立人又は後見人候補者による後見制度支援預金の利用申し出

家庭裁判所による利用適否の検討

後見人が、後見制度支援預金の利用が適していると判断した場合

①預入する金額、②定期送金の金額などを設定し、家庭裁判所に後見制度支援預金を利用する旨の報告書を提出します。

(注) 後見人が後見制度支援預金の利用に適さないと判断した場合は、家庭裁判所は再検討します。

後見制度支援預金の作成

家庭裁判所が、報告書の内容を確認し、後見制度支援預金の利用に適していると判断した場合は、指示書が後見人に発行されるので、指示書を持参して北海道信用金庫で口座作成手続きをしてください。

口座作成後、家庭裁判所に作成報告

- 口座作成後速やかに、口座の写し等資料を添えて報告してください。
- 専門職後見人が選任されていた場合、一般的には、親族後見人へ財産を引き継ぎ、辞任します。

後見制度において利用する「後見制度支援預金」のご案内

～ ご本人の大切なご預金を安全かつ簡便に
管理するための制度です ～

北海道信用金庫

- Q 「後見制度支援預金」とはどのようなものですか。
- A 後見制度による支援を受ける方（ご本人）の預金のうち、日常的な支払いをするのに必要十分な金銭は後見人がご自身で管理し、残りの通常使用しない金銭は「後見制度支援預金」として家庭裁判所の指示書に基づき別口座で管理します。
- Q 「後見制度支援預金」の作成手順を教えてください。
- A 後見人が管理するのに必要十分な金額以上の預金があり、「後見制度支援預金」を作成した方が良くと後見人が判断した場合、後見人は家庭裁判所にその旨申し出ていただき、家庭裁判所が発行した指示書を北海道信用金庫に持参して「後見制度支援預金」を作成し、その通帳の写しを裁判所に提出します。
- なお、後見人が管理するのに必要十分な金額以上の預金がある場合、別途、家庭裁判所において専門職後見人が選任されることもあります。この場合、「後見制度支援預金」を作成した方が良くかどうかはその専門職後見人が判断し、一般的に手続き終了後に辞任します。
- Q 後見人が自由に「後見制度支援預金」を出金することはできますか。
- A 預け入れる場合も、出金する場合も家庭裁判所の指示書が必要となります。後見人が自分で管理している口座では資金が不足する場合、家庭裁判所に申し出ていただき、出金等の指示書を発行していただいでください。
- また、後見人が管理している口座の残高が増加し、「後見制度支援預金」に追加で預け入れる場合も、家庭裁判所に申し出て追加預入の指示書をいただいでください。
- Q 誤って指示書なく「後見制度支援預金」に預け入れた場合、入金訂正はできますか。
- A 指示書なく誤って入金した場合でも、出金又は訂正をする際は家庭裁判所の指示書が必要です。
- Q 本人の毎月の定期的収支は赤字なので、後見人の管理する預金はすぐに不足することが予想されるのですが。
- A そのような場合には、定期的かつ自動的に必要金額を「後見制度支援預金」から後見人管理の預金口座に送金することができます。また、本人の定期的な収支

が変動した場合は、送金額を変更することもできます。

いずれの場合も、家庭裁判所の指示書が必要となりますので、「定期送金額の設定又は変更の報告書」（書式は裁判所にあります）を裏付け資料とともに提出してください。家庭裁判所は報告書の内容に問題がないと判断すれば申出に基づいて定期送金額変更の指示書を発行しますので、指示書に基づき手続きをしてください。

Q 「後見制度支援預金」はいくらから預入できるのでしょうか。

A 金額は自由です。例えば本人の預金残高が3百万円、かつ毎月の収支が黒字の場合で、後見人の手元には1百万円あれば十分と考えた場合には、残額の2百万円を「後見制度支援預金」に預入することで後見人の管理負担を軽くすることができます。

Q 同じような制度の後見制度支援信託とはどこが違うのでしょうか。

A 主な違いは次の2つです。

1. 後見制度支援信託では最低預入単位が定められている信託銀行もありますが、「後見制度支援預金」は最低預入の制限がありません。従ってどなたでも利用し易くなっています。
2. 「後見制度支援預金」には特別な手数料等や後見制度支援信託では発生する信託報酬も必要ありません。また、専門職後見人が選任されない場合は、選任に係る費用も発生しません。

Q 「後見制度支援預金」の金利はどのようになりますか。

A 普通預金の店頭表示利率を付利させていただきます。

Q 預金保険の対象となりますか。

A 「後見制度支援預金」も預金保険の対象となり、被後見人が北海道信用金庫に預入されている他の預金と合算して1,000万円とその利息が保護されます。

Q 「後見制度支援預金」を利用しても家庭裁判所の後見監督はありますか。

A 「後見制度支援預金」を利用している場合でも、家庭裁判所は毎年定期的に後見報告をお願いしています。従って後見等事務報告書の提出時、「後見制度支援預金」を含む通帳のコピーも添付してください。また、収支一覧表の作成や、領収書などを保管するとともに、ご本人の心身の状態や生活の状況を定期的に記録するようにしておいてください。

以上